

桐生西ロータリークラブ週報



Rotary

2022-23年度RIテーマ ジェニファー E. ジョーンズRI検査
イマジンロータリー IMAGINE ROTARY

例会日時 毎週金曜日 12:30~13:30
例会場・事務所 桐生市広沢町1-2689 日本料理うおせん
Eメール kiryu-nishi@rid2840.jp TEL 0277-47-7061
URL http://www.rid2840.jp/kiryu-nishi FAX 0277-47-7062
会長 東郷 学 公共イメージ委員長 栗原秀一 クラブ会報・雑誌担当 小林 聡
幹事 池末晋介 公共イメジ委員 金子福松、羽鳥 隆、下井田秀一 (歴史編集・IT・CIO担当)

No. 2284

2023年6月16日発行

第2415例会 (2023・6・9) 報告

- | | |
|---------------------|----------|
| 1. 点 鐘 | 7. 食 事 |
| 2. ロータリーソング(我等の生業) | 8. 委員会報告 |
| 3. 出席100%表彰・誕生祝・結婚祝 | 9. 会員卓話 |
| 4. 会長報告 | 10. 会員研修 |
| 5. 幹事報告 | 11. 点 鐘 |
| 6. 乾 杯 | |

◆出席100%表彰

- 坪井 良行 君 (23年)
- 浦野 幸子 君 (8年)
- 堀江 絹子 君 (5年)
- 新島 健介 君 (4年)



桐生RC所属の森ガバナーを輩出する関係で来年令和6年5月に地区研修・協議会を桐生西RCが主催、南RCをコ・ホストとして開催することになります。その点も含め、桐生4RCでは継続審議として引き継ぎをおこなっています。

- 2. 次週、6月16日(金)は伊香保温泉ホテル木暮にて「さよなら例会」を行ないます。例会としましては、点鐘午後6時時30分、会場はホテル一階「SAKURA」となりますのでお間違えの無いようご注意ください。

◆誕生祝い

- 東郷 庸史 君
- 井本万里子 君



◆結婚祝い

- 青山 豊 君
- 新井みゆき 君



◆幹事報告

◇例会変更のお知らせ

- 桐生RC 6/19 最終例会(点鐘18:30 たつ吉) 6/26(休)
- 桐生南RC 6/21 さよなら夜間例会 6/28 (休)
- 桐生赤城RC 6/20 さよなら例会(点鐘18:30 ホテル木暮) 6/27 (休)

他8RCより

◇クラブ会報が到着しております

- 桐生RC 5/22~28
- 桐生南RC 5/10 5/24
- 桐生赤城RC 5/30

◇その他

- ・中野ガバナー事務所より「第40回2840地区 茶の湯研修会のご案内」が届いております。
- ・中野ガバナー事務所より「ポリオプラス・ソサエティのご案内」が届いております。
「ポリオプラス・ソサエティ：The PolioPlus Society」すでに多くの国々のロータリー会員が参加しており、毎年100ドルをロータリー財団の「ポリオプラス」への寄付をお約束いただけるロータリー会員に登録していただき、登録証とソサエティ・メンバーのピンバッジを受取っていただくものです
- ・桐生商工会議所より「桐生商工だより6月号(816号)」が届いております。

◆会長報告

東郷会長

いよいよ本日こちらの会場で開催する最後の通常例会です。お陰様で、なんとか今年度を終えることができそうです。退任挨拶は次週さよなら例会の場となりますが、この場をお借りして皆さまに例会運営へのご協力を感謝申し上げます。ありがとうございました。

- 1. 昨夜「桐生よしのや」にて桐生4RC新旧会長幹事会を開催いたしました。当地区から次々年度、

桐生西ロータリークラブ

◆乾杯

副S A A
新島 健介 君



皆様こんにちは。諸先輩方が居られる中僭越ではございますが、乾杯のご発声をさせていただきます。
私は、入会して5年になります。50代になりまして、時間が経つのが毎月毎年早く成っているような気が致します。改めて時間の大切さを感じ、毎日大切に使うべきなのと思っております。勿論例会も時間を作り、出席100%を目指して行きたいと思っております。
本日、表彰された皆様、お祝いの皆様おめでとうございます。本日の例会にご参加の皆様の益々のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げまして乾杯したいと思います。乾杯！

◇米山BOX

江原米山奨学担当

奈良さん、下井田さん 本日はよろしくお祈りします

東郷会長

久しぶりの出席ですみません

新人卓話させていただきます

奈良君

卓話です ありがとうございます

下井田君

奈良さんガンバッテ！

野村君

奈良さん卓話を楽しみにしています

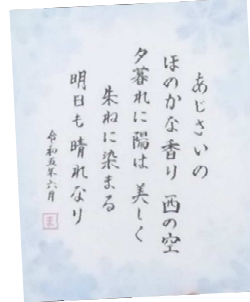
津久井君、江原君、須田君、船戸君

「にんげん」444号何とか出来上がりました 船戸君

なかなか出席出来ずすみません

坂口君、木村君

<今日の一句> 津久井正義 君



◆委員会報告

●クラブ運営委員会

◇出席報告

青山桃子出席担当

会員総数52名(出席免除者10名の内7名が出席の為)

出席率対象者49名、出席率対象者出席人数35名

欠席者14名(内前メイク5名) 最終欠席者9名

出席率 81.63% (前々例会修正出席率 85.71%)

●拠金委員会

◇ニコニコBOX

早川ニコニコBOX担当

一年間ありがとうございました

東郷会長

感謝を込めて 東郷会長、池末幹事 ご苦労様でした

江原君

東郷会長、池末幹事 一年間お疲れ様でした

野村君

奈良さん、下井田さん 卓話御苦労様です

家住君

下井田クラブ研修リーダー ご指導宜しくお祈りします

前原君

奈良さん 卓話楽しみです

青山(桃)君、須田君

リサイクル募金にご協力ありがとうございます

船戸君

子供達がみな結婚！！嬉しいです

奈良君

皆様のご協力のおかげで一年間

例会を無事に運営できました

津久井君

なかなか出席出来ずすみません 加藤君、坂口君、木村君

◇ロータリー財団

中里ロータリー財団担当

拠金委員の皆様 いつもありがとうございます 東郷会長

東郷年度の役員の皆様にお疲れ様

今年も楽しかったです

野村君

奈良さん卓話 下井田さん研修 よろしくお祈りします

小林(恵)君、花房君

下井田様 研修よく聞きたいと思っています

よろしくお祈りします

船戸君

下井田研修リーダー 本日は御苦労様です

金子君

奈良さん 卓話楽しみにしています

前原君、井本君、須田君

卓話させていただきます

下井田君

卓話緊張 噛みます すみません

奈良君

江原さん一年間楽しかったです。そこで、私が一句

投稿します。読み上げて下さい。

津久井君

城越さん 西RC慣れましたか 頑張りましょう 松島君

感謝を込めて 佐々木綾子さん

一年間お世話になりました

江原君

なかなか出席出来ずすみません 加藤君、坂口君、木村君

新入会員卓話



株式会社 アーリーホーム
代表取締役

奈良 真理子 君

株式会社アーリーホーム 代表取締役の奈良真理子と申します。弊社は、建築・設計事務所として、注文住宅の建築や商業建築、リフォーム等で地場に密着した建築事業を展開しております。その始まりは「アーリーオート」という当時流行っていた新車や中古車のリメイク・販売事業を、先代である主人、奈良英典とともに伊勢崎市と前橋市においてはじめました。お客様と直接関われることの楽しさや、要望に応え、それを達成した時の喜びの大きさにやりがいを感じ、同時に責任の重さや当たり前のことを当たり前にする大切さを学びました。

当時の流行りもあって経営は順調でしたが、かねてから住宅の販売に興味があり、主人は経営の傍らで、必要な実務経験を積みながら建築士の勉強に励みました。猛勉強と修業の甲斐あって資格を取得することができ、平成8年に有限会社アーリーホームを設立。前橋市から今いる新里に拠点を移し、長年の夢であった建築業をスタートさせました。

異業種への参入ということもあり、創業当時はなかなか順風満帆とはいきませんでした。前身企業の「当たり前のことを当たり前にする」という誠実さを大切に、お客様にとって「終の住み家」になるようにと、1棟1棟じっくりと向き合い続けた結果、徐々にお客様から次のお客様のご紹介を頂けるようになりました。

弊社の紹介率は6割を超えていて、当時から営業マンが一人もいない中で、たくさんのご縁を頂けるまでに成長できたのは、お客様自身が自分の家を愛し、自ら営業マンとなって私達を支えて下さっているおかげです。“お客様と工務店”と

桐生西ロータリークラブ

いう垣根を超えて、家族やパートナーのような信頼関係を築けたら、こんなに嬉しいことはありません。

弊社は「まっすぐ、ふつう。の家づくり」や「我が家と
思って責任工事」を経営理念として掲げていて、そんな創業
当時の想いや決意が表れています。

「まっすぐ、ふつう」と聞くと、平凡なの？規格住宅な
の？と誤解されることが多いのですが、そういった意味では
ありません。お客様が住みたい家を形にしたい、家が建つま
でのプロセスも楽しんで欲しい。そのためには、常に正直で
あることが大切だと考え、飾らず誠実に、お客様の想いに
まっすぐ向き合っていこう！経験や実績におごることなく
「そんな事はやるのが普通でしょ？」と思うことを当たり前
にやっていこう！そんな決意の表れが、先代と共に掲げた
「まっすぐ、ふつう。の家づくり」なのです。

実際にご提案する家は、お客様の個性と要望が詰まった完
全オーダーメイド住宅なので、家づくりを終えたオーナー様
から「全然普通じゃなかったよ！」と、笑いながら言われた
ことも多々あります。今までたくさんの家を手掛けて参りま
したが、今後はどんなお家になるかしら？と、いまだに毎回
胸をわくわくさせております。

プライベートでは、趣味のゴルフを楽しんだり、子育てに
奮闘したり、仕事との両立で忙しく過ごしておりました。主
人の方はゴルフ一色で、ベストスコアは66をマークし、クラ
ブ等のチューニングも自身でこなすほどにのめり込み、夜な
夜な仲間と集まってはゴルフ談義やチューニングに明け暮れ
ていました。このロータリーをご紹介下さった江原測量事務
所の江原利夫さんとも、ゴルフがきっかけで親睦を深め、新
里村が桐生市と合併した年に主人は、桐生市の地区対抗ゴル
フで地区代表として見事メダリストに輝き、地域をあげて大
変盛り上がったことをよく覚えております。主人の影響で幼
い頃からゴルフ少年だった長男も、一緒にゴルフへ連れて
行ってもらったり、江原さんや地域の方々に大変可愛がっ
て頂きました。そうして地域の方々との交流が広がっていき
、公私共に、忙しくも充実した毎日でした。

しかし平成17年10月、先代である主人がくも膜下出血で
倒れ、急逝してしまいました。会社が10周年を目前として
いた矢先のことでした。突然のことに頭は追いつかず、経営の
全てを先代に頼り切っていた私は途方に暮れてしまいました。
まだ創業時の借入れも残っていた状態で、3人の子供を抱
えながら、果たして1人でやっていけるのか、会社をたたむ
べきか続けるべきかと随分と悩みました。しかし、幼いなが
らにも父親の遺志を継ごうとする子供達に背中を押され、今
まで携わったお客様への責任を果たしていこう！と、経営存
続を決意し、同年11月に代表取締役役に就任いたしました。

右も左も全くわからない中、無事に会社を存続していくこ
とが出来たのは、ひとえに江原さんをはじめとする地域の
方々、関係各社の皆様方のご協力のおかげです。

主人が倒れた際も、偶然通りがかった江原さんが異変に気
付いて駆けつけてくれて、パニックだった私と一緒に救急車
に乗って、病院まで付き添って下さいました。

後日談で、江原夫人から「一度帰宅した主人が、その日は
仕事に戻ると出かけて行った。普段そんなことは滅多にない
から不思議に思ったけど、虫の知らせがあったのかもね」と
教えて下さいました。あの時、江原さんがいなければ、私も
子供たちも、冷静な判断が出来なかったと思います。この場
を借りてお礼を申し上げます。その節は本当にありがとうございました。

思い返せば、そこからは決して平坦な道ではありませんで
した。まだまだ男性中心だった建築業界、30代の女性経営者
は珍しく、当時小学生、中学生、高校生だった子供たちを育
てながら、会社を守り、生き抜くために必死に走り続けまし
た。お叱りやご指導を頂く事も多々ございました。趣味を楽
しむ間もなく、苦勞の連続ではありましたが、経営者として
も、人間としても、大きく成長するための大事な過程だった
ように思います。

そして、代表取締役役に就任し5年が経った平成22年には、
先代の悲願でありました、株式会社化を達成することが出来
ました。その年に、長男が東北福祉大学へ入学。

幼い頃よりゴルフの道を究めていた長男は、地元の方々から
の応援もあり、大学のゴルフ部で現在の松山英樹プロ達と共
に研鑽を積みプロゴルファーを目指していましたが、「家業
を支えたい」と、自らの意思で建築系の学校へ改めて入学し
ました。

卒業後は、別の建築土木会社へ就職し、一から現場で実務
経験を積み、3年前に弊社への入社を果たしました。長男の入
社を機に、造成・外構工事を中心とした土木工事にも本格的
に力を入れるようになり、建築工事に加えて施工の提案する
ことで事業発展を目指しております。今はまだ建築士として、
土木職人として現場業務に多忙の毎日ですが、もう少し時間
的余裕が出来たらまたゴルフを始めたいと申しておりますの
で、その時はぜひ宜しくお願い致します。

長女、次女もまた、社外ではありますが建築業に携わり、
父の遺志を継ごうとしてくれています。母としては、「別の
未来もあったらいい」と思いながらも、やはり嬉しく、こ
れからの未来が楽しみで仕方がありません。

最近では、後継者となる覚悟を持って入社した長男や、次
の若い世代のためにもと、創業25周年を機に、モデルハウス
を含めた新社屋の建設に踏み切ります。新社屋は、昨年完成
を迎え、日々めまぐるしく変化していく建築業界の“今”に
対応し、様々なアイデアをご提供することが可能となりました。

弊社は、新たなスタートラインに立ったばかりです。コロ
ナ禍におけるウッドショックから始まり、物価高騰・一部の
資材不足など、建築業界もまだまだ厳しい状況が続いており
ますが、創業当時の経営理念の根本にある誠実さと感謝
を忘れることなく、これから先も、長く皆様に愛される地元
企業となれるように精進してまいります。

そして、今まで周りの皆様から頂いたご恩を、少しで
も返していけたらと思っておりますので、このロータリーの
活動を通して地域や社会に貢献していくことで、その役目
を果たせるのではと感じております。まだまだ未熟ではござ
いますが、今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。
ご清聴ありがとうございました。

会員研修

クラブ研修リーダー

下井田 秀一 君



「D・E・I」
多様性 (diversity)
公平さ (equity)
インクルージョン (inclusion)

“2019年採択 D E I 声明”

ロータリーで私たちは、持続可能な良い変化を生
むために人びとが手を取り合って行動する世界という
ビジョンの実現には、多様性があり、公平で、イン
クルージョン (包摂的) な文化を培うことが不可欠である
と理解しています。

私たちは多様性を重んじ、すべての背景、年齢、民
族、人種、肌の色、障害、学習スタイル、宗教、信条、
社会経済的立場、文化、婚姻状況、使用言語、性別、
性的指向、ジェンダー自認だけでなく、異なるアイ
デア、考え、価値観、信念を持つ人びとによる貢献を大
切にします。

残念ながら、世界には今だに人種、宗教、民族、イデオ
ロギー、伝統的階層構造など様々な対立や差別が存在しま
す。

また、経済や地域による格差や分断が進行していると
言わざるを得ません。この様な状況下でロータリーがグロー

桐生西ロータリークラブ

バルに発展して行く為には必須のコンセプトです。ロータリアンはこのD・E・Iを正しく理解して推進して行かなければならないでしょう。

この事に、何の疑いも迷いも無い事をおことわりした上で本日は会員各位と一緒に考えてみたいと思います。

「民主主義的価値観としてのD・E・Iとロータリー」

‘94年誕生した南アフリカのマンデラ政権によって同国の人種差別（アパルトヘイト）は大きく改善されました。27年間も獄中にあったマンデラ氏を’90年に釈放に導いたのは国内の民主化運動と同時に世界各国の批判や経済制裁によるものです。これは世界の民主主義的価値観が一国の民主化に貢献した好例と言えるでしょう。

ただし、世界で民主的な国が90カ国、権威主義的な国が109カ国、世界人口の71%が「独裁に分類される国」に住んでいるという現実があります。私達は民主主義的価値観を共有し、それを広める努力を継続しなければなりません。しかし一方で、その事を急ぎ過ぎると衝突や戦争の原因となってしまう可能性があるという自覚を持つことも必要なのではないでしょうか。

ましてや、政治と一線を画すロータリーとしては私達に何ができるのか、何をやる事が適切なのか？を慎重に考えるべきです。

「ポリティカル・コレクトネスとD・E・I」

“ポリコレ”と略称されるポリティカルコレクトネス（political correctness）とは、あらゆるコンテンツの制作において、人種や宗教などのあらゆる属性が社会に存在していることを尊重し、特定の人々を不快にさせたり、差別したりしない様にする表現のことです。

D・E・Iと概念を共有するところが多いと思います。具体例をあげると色の区別で「肌色」は使わない、保育さんではなく保育士と呼ぶなどです。ポリコレはあらゆる方向に目を向け、差別的な表現の是正が期待できます。私達は無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）に日頃から注意しなければなりません。

一方で、ポリコレは人がどう感じるかの概念なので厳密な基準はないようです。線引きが厳し過ぎて他人の攻撃に使われてしまうと、表現規制につながる危険性が指摘されています。

「行きすぎたポリコレ」は他人に無理やり自分の考えを押しつけようと攻撃的になったり、線引きがあまりに厳し過ぎて窮屈な思いを強いることになるとされています。

“寛容な精神”を尊ぶ我々ロータリアンの立ち位置が自ずと見えてくる気がします。

「反対意見と多様性」

‘18年にある女性国会議員が「同性のカップルは子供を作らない、つまり“生産性”がない。」と発言しました。また、今年2月にある総理秘書官が同性婚について「見るのも嫌だ。人権や価値観は尊重するが、認めたら国を捨てる人が出る。」と発言して更迭されました。両氏とも大きな非難を浴びました。さらに前後の発言を加味すると批判は当然だと私も思いました。

ただここで、彼らの表現を少し変えて、「権利は当然認めるが残念ながら同性カップルからはほとんど子供は生まれないという事実があります。」「オフレコであえて自分の好みを言わせてもらえれば私はあまり好きではない。」と云ったとしたら周囲の反応はどうだったでしょうか？

事実を事実として指摘する。或いは、個人的な好みを述べたに過ぎないなどの事を攻撃的に批判することになってはいないか？ という見方も出来る様な気がしてきます。

メディアのスクープ競争や視聴率争い、政敵を追い詰める政争、偏ったSNSの拡散などに耳目を奪われて惑わされず冷静な判断が望まれます。

良いコンセンサスを形成するには反対意見に耳を傾ける姿勢は必須です。反対意見を封殺すると何かを見落とすことになりはしないか？ D・E・Iの推進には反対意見の尊重という広い多様性も欠かせない視点だと思うのですが皆様はいかがお考えでしょうか？

「不当な差別と区別」

LGBT法案の議論で「差別は許されない」とするか「不当な差別はあってはならない」とするかで大論争となりました。やや、この議論も政争の具とされている感は否めないところはあると感じましたが、興味深いものでした。

“不当な差別”の逆は“正統な差別”ということになるのですが、そもそも正統な差別という言葉は日本語には無い表現だと思います。だったら何かと云うと、正統な差別とはつまり区別ということになるのでしょうか。「差別」はあってはならないが「区別」は時にはあった方が良いなどと云うと批判的となるかも知れません。しかし、「区別」という概念は時にはあった方が良いと思うのです。例えば外見性別は男性でも性自認は女性という人がいたとします。この人が伊香保温泉へ行って突然女湯に入って行ったとしたらどうでしょう。現場は大混乱になると想像出来ます。

性自認は女性であっても外見が男性の方は女湯への入浴はご遠慮いただきたいというのが妥当な「区別」だと思うのです。

“大雨で行方不明の女性がいま捜査にご協力をお願いします”と報じたらいかがでしょうか？ 性差別表現だとされるでしょうか。もちろんそんな事はありません。行方不明者の性別が不明であるよりは捜査の効率は格段に上がるはずですが。前途したとおり、ポリコレの概念は人がどう感じるかの分野のことなので明確な基準を設定するのは難しいのです。「差別」と「区別」のアウト・セーフの基準もまた難しく、中間にグレーゾーンが存在する事を皆が意識して認めざるを得ません。そのグレーゾーンに対して寛容な気持ちを持たないと息苦しい世の中になってしまいます。したがって私は「不当な差別はあってはならない」に一票です。皆様はいかがですか？

「和を以て貴（とうと）しと為す」

過日の座禅例会で坪井住職の法話からこの卓語をどうまとめるかについて貴重なヒントをいただきました。

6世紀、すなわち1500年も前に聖徳太子によって「十七条憲法」が定められました。この第1条が有名な“和を以て貴しとなす”です。しかし、これが1条の全文ではありません。“和というものを何よりも大切に、いさかきを起さぬように心がけよ。上の者が和やかで下の者も素直ならば、議論で対立することがあっても、おのずから道理にかなない調和する”というのが第1条の主旨です。単に皆で仲良くしましようという事ではなく「調和」ができれば世の中は何事も成就する。というところがポイントです。

仏教の教えをバックボーンにしながら脈々と受け継がれてきた日本人共通の価値観は1500年もの歴史があるという事です。度重なる宗教や民族対立による戦争を繰り返してきた西洋や中東の歴史とは異なる日本の文化や価値観は誇るべきものです。いかがでしょうか、私はロータリアンのD・E・Iに通ずるところがあるような気がするのです。

ロータリーはアメリカで生まれました。そのアメリカ合衆国は今だに残念ながら人種差別問題をかかえた多民族国家です。また、近年移民を多く受け入れているヨーロッパ各国もまた然りです。彼らにとってD・E・Iは欠くことが出来ない必要なものです。もちろん、だからといって我々日本のロータリアンはそれに協力する必要はないなどと主張するつもりは毛頭ありません。むしろ、労働力不足解消の為に日本もこれから外国人労働者を必要とする国となります。「調和」という精神的支柱ともう一方の手に「寛容」の心を携えた叡智の集団として日本のロータリアンのD・E・Iをじっくりと落着いて推進して行くのではありませんか。

会員各位に私の感じていることを率直にお伝えして、皆様ならどうお考えになりますか？ という観点からお話ししたつもりです。私の考えを押し付けるつもりはまったくありません。皆様からのご意見やご批判をむしろ楽しみにしております。

本日はどうもありがとうございました。

《次例会予告》

7月7日(金) 青山年度初例会 12:30点鐘